

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人  
理事長 栗原



東京慈恵会医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	112人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	555人	221人	584.4人	看護業務補助	27人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	6人	8.1人	理学療法士	13人	臨床 臨床検査技師	98人
薬 剤 師	66人	0人	66.0人	作業療法士	5人		衛生検査技師
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	11人	検査 その他	0人
助 産 師	25人	0.4人	25.4人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	952人	0.9人	952.9人	臨床工学技士	15人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	3人	0人	3.0人	栄 養 士	24人	その他の技術員	91人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯科技工士	0人	事務職員	164人
管理栄養士	21人	3.2人	24.2人	診療放射線技師	65人	その他の職員	3人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3. 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	847人	1人	848人
1日当たり平均外来患者数	2,859人	49人	2,908人
1日当たり平均調剤数	入院 923 剤	外来 537 剤	合計 1,460 剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第 10)

## 高度の医療の提供の実績

### 1. 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	1人
・溶血性貧血症の病因解析ならびに遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	6人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術 (内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗癌剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・無	人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧充進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有 (無)	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有 (無)	人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有 (無)	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有 (無)	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有 (無)	人
・悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有 (無)	人
・鏡視下肩峰下腔除圧術	有 (無)	人
・神経変性疾患のDNA診断	有 (無)	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有 (無)	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有 (無)	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有 (無)	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有 (無)	人
・カフェイン併用科学療法	有 (無)	人
・ <sup>31</sup> P 磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲診断	有 (無)	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有 (無)	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有 (無)	人
・遺伝性コプロポルフィリン症のDNA診断	有 (無)	人
・固形腫瘍 (神経芽腫) のRNA診断	有 (無)	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有 (無)	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有 (無)	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有 (無)	人
・膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術	有 (無)	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有 (無)	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有 (無)	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有 (無)	人
・筋過緊張に対する muscle afferent block(MAB)治療	有 (無)	人
・Q熱診断における血清抗体価測定および病原体遺伝子診断	有 (無)	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有 (無)	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有 (無)	人
・抗がん剤感受性試験 (CD-DST 法)	有 (無)	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 (無)	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有 (無)	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有 (無)	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有 (無)	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有 (無)	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有 (無)	人
・樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有 (無)	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有 (無)	人

高度先進医療の種類 (医科)	承認	取扱い患者数
・骨腫瘍の CT 透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有 (無)	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有 (無)	人
・HLA 抗原不一致血縁ドナーからの CD34 陽性造血幹細胞移植	有 (無)	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有 (無)	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対すヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術 (CT 透視下法)	有 (無)	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有 (無)	人
・活性化血小板の検出	有 (無)	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 (無)	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有 (無)	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有 (無)	人
・末梢血幹細胞 (CD34 陽性細胞に限る) による血管再生治療	有 (無)	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有 (無)	人
・副甲状腺内活性型ビタミン D (アナログ) 直接注入療法	有 (無)	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有 (無)	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有 (無)	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発生した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有 (無)	人
・自己腫瘍 (組織) を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有 (無)	人
・自己腫瘍 (組織) 及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有 (無)	人

高度先進医療の種類 (歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有 (無)	人
・顎顔面補綴	有 (無)	人
・顎関節症の補綴学的治療	有 (無)	人
・歯周組織再生誘導法	有 (無)	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有 (無)	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有 (無)	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有 (無)	人
・レーザー応用によるう蝕除去・スケーリングの無痛療法	有 (無)	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有 (無)	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有 (無)	人
・耳鼻咽喉領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有 (無)	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有 (無)	人
・自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術 (PPH)	有 (無)	人
・画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有 (無)	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
・凍結保存同種組織を用いた外科治療	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・強度変調放射線治療	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・胎児心超音波検査	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	32人
・インプラント義歯	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・顎顔面補綴	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・人工中耳	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・歯周組織再生誘導法	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・抗がん剤感受性試験	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・腹腔鏡下肝切除術	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・生体部分肺移植術	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・活性化血小板の検出	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・末梢血幹細胞による血管再生治療	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	0人
・眼底三次元画像解析	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人
・定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考の為記入すること。

## (様式第 10)

## 2. 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	97人	・モヤモヤ病 (ウィリス動脈輪閉鎖症)	53人
・多発性硬化症	117人	・ウェゲナー肉芽腫症	31人
・重症筋無力症	202人	・特発性拡張型 (うっ血型) 心筋症	46人
・全身性エリテマトーデス	359人	・多系統萎縮症	10人
・スモン	0人	・表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型)	0人
・再生不良性貧血	132人	・膿疱性乾癬	12人
・サルコイドーシス	133人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・筋萎縮性側索硬化症	26人	・原発性胆汁性肝硬変	315人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	303人	・重症急性膵炎	12人
・特発性血小板減少性紫斑病	203人	・特発性大腿骨頭壊死症	62人
・結節性動脈周囲炎	9人	・混合性結合組織病	93人
・潰瘍性大腸炎	324人	・原発性免疫不全症候群	5人
・大動脈炎症候群	27人	・特発性間質性肺炎	12人
・ビュルガー病	23人	・網膜色素変性症	246人
・天疱瘡	63人	・プリオン病	1人
・脊髄小脳変性症	84人	・原発性肺高血圧症	5人
・クローン病	64人	・神経線腫症	549人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	16人	・バッド・キアリ (Budd-Chiari) 症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	8人	・特発性慢性肺血栓栓症 (肺高血圧症)	1人
・アミロイドーシス	37人	・ライゾーム病 (ファブリー [Fabry] 病) 含む	132人
・後縦靭帯骨化症	108人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3. 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した病例検討会の開催頻度	1ヶ月に 年間	2回程度 33回	
剖検の状況	剖検症例数	69例	剖検率 13.5%

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度向上に関する研究	田尻 久雄	消化器・肝臓内科	100万円	厚生労働省科学研究費 補・委
2	Toll-like receptor agonistsによる成熟樹状細胞とheat-shocked膵臓癌との融合細胞を用いた膵臓癌に対する腫瘍抗原特異的なpolyclonal CTLの誘導	小井戸 薫雄	消化器・肝臓内科	200万円	武田科学振興財団 補・委
3	運動神経細胞の選択的脆弱性に関する分子細胞機構の解明	河野 優	神経内科	100万円	文部科学省 補・委
4	腎疾患における低酸素応答機構の解析と血管再生医療の応用について	宇都宮 保典	腎臓・高血圧内科	110万円	文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C) 補・委
5	BMPの糸球体発生および糸球体障害における役割	宮崎 陽一	腎臓・高血圧内科	80万円	文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C) 補・委
6	腎臓における尿酸動態の分子生物学的解析	市田 公美	腎臓・高血圧内科	110万円	文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C) 補・委
7	異種胎児を用いた自己間葉系幹細胞由来クローン腎臓作成法の開発	横尾 隆	腎臓・高血圧内科	120万円	文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C) 補・委
8	腎尿細管細胞のマグネシウム輸送担体のクローニング	大城戸 一郎	腎臓・高血圧内科	50万円	文部科学省 科学研究費 若手研究 (B) 補・委
9	CD26に基づく難治性糸球体腎炎の治療応用への基礎的研究	小林 政司	腎臓・高血圧内科	180万円	文部科学省 科学研究費 若手研究 (B) 補・委
10	IgA腎症におけるアンジオテンシンII受容体拮抗薬の腎保護作用に関する多施設共同研究	川村 哲也	腎臓・高血圧内科	190万円	日本腎臓財団 補・委
11	IgA腎症の腎病理所見と予後の関連に関する多施設共同研究	川村 哲也	腎臓・高血圧内科	285万円	日本腎臓財団 補・委
12	小児1型糖尿病の家族歴とその合併症への影響に関する研究	西村 理明	糖尿病・代謝・内分泌内科	80万円	文部科学省 若手研究 (B) 補・委
13	小児におけるハイリスク肥満の有病率と生活習慣介入に関する前向きコホート研究	田嶋 尚子	糖尿病・代謝・内分泌内科	1230万円	文部科学省 基盤研究 (A) 補・委
14	遺伝子アブレーションと分子介入による膵島傷害の抑制と再生の促進	佐々木 敬	糖尿病・代謝・内分泌内科	130万円	文部科学省 基盤研究 (C) 補・委



No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
15	オン・デマンド増殖の可能な遺伝子 改変動物由来臍島細胞の樹立	藤本 啓	糖尿病・代 謝・内分泌 内科	160万円	補 ・ 委 文部科学省 若手研 究(B)
16	クッシング症候群における癌転移抑 制蛋白NM23のコルチゾール合成に対 する検討	斉藤 隆俊	糖尿病・代 謝・内分泌 内科	140万円	補 ・ 委 文部科学省 若手研 究(B)
17	都道府県等の生活習慣病リスク因子 の格差及び経年モニタリング手法に 関する検討	田嶋 尚子	糖尿病・代 謝・内分泌 内科	200万円	補 ・ 委 厚生労働省科学研究 費
18	難治性疾患克服研究の企画又は評価 に関する研究	田嶋 尚子	糖尿病・代 謝・内分泌 内科	150万円	補 ・ 委 厚生労働省科学研究 費
19	難治性疾患克服研究の企画又は評価 に関する研究	佐々木 敬	糖尿病・代 謝・内分泌 内科	220万円	補 ・ 委 厚生労働省科学研究 費
20	がん細胞のストレス応答機構および 薬物排出機構を標的としたがん化学 療法の開発	相羽 恵介	腫瘍・血液 内科	62.5万円	補 ・ 委 学術フロンティア推 進事業
21	多発性骨髄腫における抗がん剤抵抗 性の解析. 多発性骨髄腫の診断法と治 療法の開発.	薄井 紀子	腫瘍・血液 内科	62.5万円	補 ・ 委 学術フロンティア推 進事業
22	難治性白血病に対する標準的治療法 の確立に関する研究.	薄井 紀子	腫瘍・血液 内科	80万円	補 ・ 委 厚生労働科学研究費
23	肺損傷と再生における末梢気道の役 割とナノテクノロジーを用いた治療 法の研究	桑野 和善	呼吸器内科	988万円	補 ・ 委 科学研究費補助金、 基盤研究 (B)
24	ライソゾーム病 (ファブリー病含 む) に関する調査研究	衛藤 義勝	小児科	1,900万円	補 ・ 委 厚生労働省科学研究 費補助金
25	小児救急医療における患者・家族 ニーズへの対応策に関する研究	衛藤 義勝	小児科	850万円	補 ・ 委 厚生労働省科学研究 費補助金
26	ライソゾーム酵素欠損症の病態解明 と新しい経口治療薬の開発	衛藤 義勝	小児科	150万円	補 ・ 委 厚生労働省科学研究 費補助金
27	先天性代謝異常に対する幹細胞治療 法の開発	衛藤 義勝	小児科	20万円	補 ・ 委 成育医療研究委託費
28	ライソゾーム病の新規治療法の開発 (来日研究生助成)	衛藤 義勝	小児科	月額15万円 2年間	補 ・ 委 上原記念生命科学財 団。
29	神経皮膚症候群に関する調査研究	中川 秀己	皮膚科	100万円	補 ・ 委 厚生労働科学研究費 補助金

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
30	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究	本田 まりこ	皮膚科	200万円	厚生労働科学研究費補助金 (補・委)
31	ヒト羊膜芽細胞からの肝細胞株の樹立とその移植、バイオ人工肝臓の作製とその機能評価	田部井 功	外科	100万円	文部科学省 (補・委)
32	胃癌におけるICG局注赤外線腹腔鏡観察によるセンチネルリンパ節同定の研究	二村 浩史	外科	60万円	文部科学省 (補・委)
33	ヒト分離培養胆道上皮細胞を用いた人工胆道モデルの作成と胆管損傷修復機序の解明	石田 祐一	外科	80万円	文部科学省 (補・委)
34	食道癌におけるユビキチン結合酵素の意義とその発現抑制による抗癌作用の解析	石橋 由朗	外科	130万円	文部科学省 (補・委)
35	慢性肝不全治療のための埋め込み型人工肝臓の開発および腎臓の肝臓化	矢永 勝彦	外科	840万円	文部科学省 (補・委)
36	肝疾患における脂質メディエータ、サイトカインおよびHGBM-1の意義	石井 雄二	外科	200万円	文部科学省 (補・委)
37	癌抑制遺伝子mda-7による肝細胞癌に対する抗腫瘍効果の検討	金井 秀樹	外科	90万円	文部科学省 (補・委)
38	迷走神経温存術式の臨床的意義に関するランダム化比較同等性試験	篠原 寿彦	外科	150万円	文部科学省 (補・委)
39	リボザイムライブラリーを用いた神経芽腫in vivoジーンディスカバリー	山形 哲也	外科	70万円	文部科学省 (補・委)
40	腫瘍免疫反応におけるT細胞のアポトーシス抑制経路の解明	加藤 久美子	外科	70万円	文部科学省 (補・委)
41	胃発癌における塩基除去修復遺伝子(hOGG1, MYH, hMTH1)変異の重要性	小林 克敏	外科	160万円	文部科学省 (補・委)
42	脳腫瘍に対するマイクロカプセルを用いた新たな局所療法の開発	常喜 達裕	脳神経外科	90万円	文部科学省 科学研究費 (補・委)
43	髄液微小循環動態の解析と“閉塞性水頭症”の細分類及び神経内視鏡手術適応の検討	大井 静雄	脳神経外科	90万円	文部科学省 科学研究費 (補・委)
44	二分脊椎症の診断・治療及び予防に関する研究(主任研究者)	大井 静雄	脳神経外科	1160万円	厚生労働省 精神神経疾患研究委託費 (補・委)

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
45	二分脊椎症の診断・治療及び予防に関する研究（分担研究者） 葉酸の二分脊椎症発生予防効果の解明	阿部 俊昭	脳神経外科	60万円	厚生労働省 精神神経疾患研究委託費 補・委
46	外傷性急性硬膜下血腫実験モデルにおける神経損傷マーカーの検討—脳腫脹の病態解明—	沢内 聡	脳神経外科	100万円	文部科学省 科学研究費 補・委
47	遺伝子解析による四肢先天異常・頭蓋骨早期癒合症の解明	田中 誠児	形成外科	200万円	文部科学省 科学研究費 若手研究(B) 補・委
48	硬組織再建—超小型自動骨延長器の開発とその最適な延長環境の検証—	酒井 新介	形成外科	50万円	文部科学省 科学研究費 若手研究(A) 補・委
49	四肢先天異常の解明—マウス全胚培養への遺伝子導入—	西岡 弘記	形成外科	80万円	文部科学省 科学研究費 若手研究(B) 補・委
50	複合組織再生—培養粘膜細胞移植による人工膀胱作成—	森 克哉	形成外科	50万円	文部科学省 科学研究費 若手研究(B) 補・委
51	遊離型の自己広背筋を用いた肺動脈ポンプの開発	松村 洋高	心臓外科	170万円	文部科学省 科学研究費 若手研究(B) 補・委
52	二分脊椎の発生病態と予防及び総合医療に関する研究	田中 忠夫	産婦人科	70万円	厚生労働省 精神・神経疾患研究委託事業 補・委
53	卵巣癌における癌幹細胞マーカーの探索と癌幹細胞分化誘導薬の開発	岡本 愛光	産婦人科	200万円	文部科学省 科学研究費 補・委
54	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立 分担研究課題：早期前立腺癌に対する各種根治療法の実験的検討	颯川 晋	泌尿器科	30万円	厚生労働省 科学研究補助金（がん臨床研究事業） 補・委
55	浸潤性膀胱がんの予後改善をめざした集学的治療の研究	颯川 晋	泌尿器科	40万円	厚生労働省 科学研究補助金（がん臨床研究事業） 補・委
56	新規前立腺癌腫瘍マーカータンパク質TT902の臨床的有用性と生物学的意義の解明	車 英俊	泌尿器科	180万円	文部科学省 研究補助金（「基盤研究C（一般）」） 補・委
57	新規前立腺癌腫瘍マーカーTT902の前立腺癌における生物学的意義の解明	木村 高弘	泌尿器科	100万円	鈴木泌尿器科医学振興財団 研究助成 補・委
58	根治術的前立腺摘除術における神経刺激装置による神経温存—腹腔鏡下手術への応用—	山田 裕紀	泌尿器科	50万円	内視鏡医学研究振興財団 研究助成 補・委
59	後天性中耳真珠腫の発症・進展機序の解明と予防・治療に関する研究	森山 寛	耳鼻咽喉科	90万円	文部科学省 科学研究費補助金 補・委

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
60	難治性副鼻腔炎における粘膜病変、特に鼻茸形成のメカニズムの解明	鴻 信義	耳鼻咽喉科	100万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
61	樹状細胞及び腫瘍細胞による融合細胞を用いた腫瘍特異的免疫療法の開発	田中 康広	耳鼻咽喉科	100万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
62	慢性副鼻腔炎における予後不良因子の網羅的解析	吉川 衛	耳鼻咽喉科	200万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
63	真菌による好酸球性副鼻腔炎の発症とその病態解明に関する研究	松脇 由典	耳鼻咽喉科	220万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
64	高齢者滲出性中耳炎の発生機序および病態解明についての臨床的・動物実験的研究	内水 浩貴	耳鼻咽喉科	100万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
65	プロテオーム解析を用いた副鼻腔炎難治化因子の解明	和田 弘太	耳鼻咽喉科	50万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
66	In site tissue engineering による中耳の再生	谷口 雄一郎	耳鼻咽喉科	130万円	補・委 文部科学省科学研究費補助金
67	脳損傷モデルラットを用いたキヌレニン酸髄注による神経保護作用に関する研究	安保 雅博	リハビリテーション科	190万円	補・委 文部科学省 基盤研究 (C)
68	高齢者・片麻痺・変形性関節症患者のバランス能力の動作解析と下肢荷重バランス検査	猪飼 哲夫	リハビリテーション科	130万円	補・委 文部科学省 基盤研究 (C)
69	嚥下障害者における咽頭感覚および誘発咳嗽による喀出力の検討	武原 格	リハビリテーション科	50万円	補・委 文部科学省 基盤研究 (B)
70	脳損傷後遺症による介護負担感に関する国際比較研究	橋本 圭司	リハビリテーション科	200万円	補・委 上原記念生命科学財団 平成18年度研究奨励金
71	拡散テンソル画像 (DTI) 及び機能的MRI (fMRI) を用いた脳外傷による高次脳機能障害の重症度判定に関する研究	岡本 隆嗣	リハビリテーション科	350万円	補・委 日本損害保険協会 2006年度 交通事故医療特定研究課題助成
72	吸入麻酔薬とNeurosteroidの相互作用	太田 修司	歯科	110万円	補・委 文部科学省 科学研究費補助金 (若手研究 (B))
73	ラベル化造影剤を用いた超音波によるがんの超早期診断システムの研究開発	松浦 知和 (分担)	中央検査部	150万円	補・委 厚生労働科学研究費補助金・萌芽的先端医療技術推進研究事業
74	ミニバイオ人工肝臓と13C安定同位体化合物代謝を利用した肝毒性試験の開発	松浦 知和	中央検査部	130万円	補・委 文部科学省・科学研究費補助金 (基盤研究 (C))

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
75	がんの診断治療用光学機器の開発	貝瀬 満	内視鏡科	160万円	補 ・ 委 厚生労働省がん研究 助成金
76	食道腺癌の高危険群の同定および予防介入試験に関する研究	貝瀬 満	内視鏡科	20万円	補 ・ 委 厚生労働省がん研究 助成金
77	拡大内視鏡による消化器がんの早期診断法の確立に関する研究	郷田 憲一	内視鏡科	150万円	補 ・ 委 厚生労働省がん研究 助成金
78	性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究	小野寺 昭一	感染制御部	2900万円	補 ・ 委 厚生労働省
79	性感染症患者のモニタリングに関する研究	小野寺 昭一	感染制御部	750万円	補 ・ 委 厚生労働省
80	輸血用血液および細胞療法の安全性に関する研究	星 順隆	輸血部	50万円	補 ・ 委 厚生労働省補助金 レギュラトリー・サ イエンス事業
81	心筋線維の動的平衡と特発性心筋症の形態発生に関する研究	河上 牧夫	病院病理部	70万円	補 ・ 委 文部科学省科学研究 費補助金基盤研究 (C)

- 注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で補助元又は委託元を記入すること。

(様式11)

## 2. 論文発表等の実績

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Gastrointest Endosc 2007; 65(1):36-46.(2007年1月発刊)	Usefulness of magnifying endoscopy with narrow band imaging for the detection of specialized intestinal metaplasia in columnar-lined esophagus and Barrett's adenocarcinoma.	Goda K, Tajiri H, Kaise M	消化器・肝臓 内科、内視鏡 科
2	J Gastroenterol 2006;41(5): 483-490.(2006年5月発刊)	New approach to diagnosing ampullary tumors by magnifying endoscopy combined with a narrow-band imaging system.	Uchiyama Y, Imazu H, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓 内科、内視鏡 科
3	Endoscopy 2006;38(4):391- 394.(2006年4月発刊)	Clinical and endoscopic characterization of depressed gastric adenoma.	Tamai N, Kaise M, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓 内科、内視鏡 科
4	Endoscopy 2006;38(10):1011- 1015.(2006年10月発刊)	A novel double-channel therapeutic endoscope ("R-scope") facilitates endoscopic submucosal dissection of superficial gastric neoplasms.	Yonezawa J, Kaise M, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓 内科、内視鏡 科
5	J Immunol 2007;178(1):613- 622.(2007年1月発刊)	Streptococcal preparation OK-432 promotes fusion efficiency and enhances induction of antigen-specific CTL by fusions of dendritic cells and colorectal cancer cells.	Koido S, Mitsunaga M, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓 内科
6	Vaccine 2007;25(14):2610- 2619.(2007年3月発刊)	Generation and functional assessment of antigen-specific T cells stimulated by fusions of dendritic cells and allogeneic breast cancer cells.	Koido S, Tajiri H, et al.	消化器・肝臓 内科
7	Brain Res 2006;1107:111-20.	Postnatal development of GABAergic axon terminals in the rat nucleus of tractus solitarius	Yoshioka M, Tashiro Y, Inoue K, Kawai Y.	神経内科
8	Neurosci Res 2006;55:300-15.	Pattern differentiation of excitatory and inhibitory synaptic inputs on distinct neuronal types in the rat caudal nucleus of the tractus solitarius	Yoshioka M, Okada T, Inoue K, Kawai Y.	神経内科
9	Acta Neurol Scand 2006; 113:221-7.	Cardiovascular dysautonomia in Parkinson's disease and multiple system atrophy	Oka H, Mochio S, Yoshioka M, Morita M, Onouchi K, Inoue K	神経内科
10	J Neurol Sci 2007; 254:72-77.	Cardiovascular autonomic dysfunction in dementia with Lewy bodies and Parkinson's disease.	Oka H, Morita M, Onouchi K, Yoshioka M, Mochio S, Inoue K.	神経内科
11	Electroenceph Clin Neurophysiol 2006; 117: S296-S297.	Visual hallucination and cardiovascular autonomic dysfunction in Parkinson's disease.	Oka H, Mochio S, Morita M, Onouchi K, Yoshioka M, Inoue K.	神経内科
12	Brain Res 2006;1083:134-44.	Local axonal arborization patterns of distinct neuronal types in the caudal nucleus of the tractus solitarius.	Okada T, Yoshioka M, Inoue K, Kawai Y.	神経内科
13	Journal of Rehabilitation Medicine 2007;39(2):185-8.	A new procedure for communication with a patient with minimal motor function and fatigability.	Uruma G, Hashimoto K, Onouchi K, Nishio Y, Kurita A, Inoue K.	神経内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
14	日本神経救急学会雑誌 2006; 19: 8-10.	神経救急医療における神経生理学的検査の現状と有用性-当院における調査から-	栗田正, 高木聡, 仙石錬平, 坂本剛, 井上聖啓, 片山晃.	神経内科
15	末梢神経2006; 17: 267-9.	Blink Reflexの経過から介在ニューロン障害が示唆されたギラン・バレー症候群の35週29歳例.	村上善勇, 豊田千純子, 磯部建夫, 持尾聡一.	神経内科
16	耳鼻 2006; 52: S256-62.	内視鏡による探触子を用いた咽喉頭感覚の検査法の開発.	谷口洋, 藤島一郎, 大野友久.	神経内科
17	日摂食嚥下リハ会誌 2006; 10: 249-56.	ワレンベルグ症候群における食塊の下咽頭への送り込み側と食道入口部の通過側の検討.	谷口洋, 藤島一郎, 大野友久, 高橋博達, 大野綾, 黒田百合.	神経内科
18	Am J Kidney Dis 2006; 47(1): 122-30.	Families' and Physicians' Predictions of Dialysis Patients' Preference Regarding Life-Sustaining Treatments in Japan.	Miura Y	腎臓・高血圧内科
19	Blood Purificat 2007; 25: 274-9.	Dialyzable uremic solutes contribute to enhanced oxidation of serum albumin in regular hemodialysis patients.	Terawaki H	腎臓・高血圧内科
20	J Biochem 2007; 141: 513-24.	Human Xanthine Oxidase Changes its Substrate Specificity of Aldehyde Oxidase Type upon Mutation of Amino Acid Residues in the Active Site: Roles of Active Site Residues in Binding and Activation of Purine Substrate.	Yamaguchi Y	腎臓・高血圧内科
21	J Am Soc Nephrol 2006; 17: 1026-34.	Xenobiotic kidney organogenesis from human mesenchymal stem cells using a growing rodent embryo.	Yokoo T	腎臓・高血圧内科
22	Ther Apher Dial 2006; 10: 257-61.	The influences of method of calcium correction and the timing of blood collection on application of the K/DOQI Clinical Practice Guidelines for Bone Metabolism and Disease in Japan.	Yokoyama K	腎臓・高血圧内科
23	Nephrol Dial Transplant 2006; 21: 1451-2.	Investigation of coronary artery calcification and stenosis by coronary angiography (CAG) in hemodialysis patients.	Yoshida H	腎臓・高血圧内科
24	Journal of Rheumatology 2006;33:1102-7	Abnormal Telomerase Activity and Telomere Length in T and B Cells from Patients with Systemic Lupus Erythematosus.	DAITARO KUROSAKA他	リウマチ・膠原病内科
25	Japan College of Rheumatology 2006;16:276-281	Autoimmunity to citrullinated type II collagen in rheumatoid arthritis.	DAITARO KUROSAKA他	リウマチ・膠原病内科
26	Heart Rhythm 2006;3:1421-1427.	Behavior of atrial ectopic beats before and after pulmonary vein isolation in patients with atrial fibrillation	Yamane T, Date T, Kanzaki Y, et al.	循環器内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
27	J Interv Card Electrophysiol 2006;16:27-30.	Dual mechanisms underlying pulmonary vein tachycardias in a patient with paroxysmal atrial fibrillation	Matsuo S, Yamane T, Kanzaki Y, et al.	循環器内科
28	Heart Rhythm 2006;3:516-523.	Entrainment mapping for rapid distinction of left and right atrial tachycardias	Miyazaki H, Stevenson WG, et al.	循環器内科
29	J Cardiovasc Electrophysiol 2006;17:682-684.	Pseudosinus tachycardia originating from left pulmonary veins	Matsuo S, Yamane T, Date T, et al.	循環器内科
30	J Arrhythmia 2006;22:98-102	When should we decide to perform a repeat pulmonary vein isolation procedure in patients with atrial fibrillation?	Inada K, Yamane T, Kanzaki Y, et al.	循環器内科
31	Heart 2006;92:1623-1627.	Plasma brain natriuretic peptide concentrations in patients undergoing pulmonary vein isolation	Date T, Yamane T, Inada K, et al.	循環器内科
32	Cardiology 2007;107:277-280	Elevated plasma brain natriuretic peptide level in cardiac sarcoidosis patients with preserved ejection fraction	Date T, Shinozaki T, Yamakawa M, et al.	循環器内科
33	PACE 2007;30:93-101.	The effects of pulmonary vein isolation on the morphology of P waves: The contribution of pulmonary vein muscle excitation to the formation of P waves	Date T, Yamane T, Inada K, et al.	循環器内科
34	J Arrhythmia 2006;22:115-118.	Common trunk of the inferior pulmonary veins in a patient with paroxysmal atrial fibrillation.	Miyanaga S, Date T, Yamane T, et al.	循環器内科
35	呼吸と循環 2007;55:9-16.	心房細動への肺静脈隔離術	山根禎一	循環器内科
36	Medical Practice 2006; 23:807-813.	現在のカテーテルアブレーション:適応と成績	山根禎一	循環器内科
37	Diabetologia 2006; 49: 1264-1273	Ghrelin prevents development of diabetes at adult age in streptozotocin-treated newborn rats.	Irako T, Akamizu T, Hosoda H, Iwakura H, Ariyasu H, Tojo K, Tajima N, Kangawa K	糖尿病・代謝・内分泌内科
38	Endocrine. 2006; 29; 351-5	Japanese IGT Subjects with high insulin response are far more frequently associated with the metabolic syndrome than those with low insulin response.	Mori Y, Hoshino K, Yokota K, Itoh Y, Tajima N	糖尿病・代謝・内分泌内科
39	Endocrine. 2006; 29: 357-61	Role of hypoadiponectinemia in the metabolic syndrome and its association with post-glucose challenge hyper-free fatty acidemia: a study in prediabetic Japanese males.	Mori Y, Hoshino K, Yokota K, Itoh Y, Tajima N	糖尿病・代謝・内分泌内科



No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
40	Diabetes Res Clin Pract. 2007; 71: 96-8	Waist circumference estimation from BMI in Japanese children.	Morimoto A, Nishimura R, Kanda A, Sano H, Matsudaira T, Miyashita Y, Shirasawa T, Takahashi E, Kawaguchi T, Tajima N	糖尿病・代謝・内分泌内科
41	Diabetes Res Clin Pract. 2006; 71: 334-8	Glycated albumin is low in obese, non-diabetic children.	Nishimura R, Kanda A, Sano H, Matsudaira T, Miyashita Y, Morimoto A, Shirasawa T, Kawaguchi T, Tajima N	糖尿病・代謝・内分泌内科
42	Diabetes Res Clin Pract. 2007; 76: 245-50	Childhood Obesity and its Relation to Serum Adiponectin and Leptin: A Report from a Population-Based Study.	Nishimura R, Kanda A, Sano H, Matsudaira T, Miyashita Y, Morimoto A, Shirasawa T, Kawaguchi T, Tajima N	糖尿病・代謝・内分泌内科
43	Osteoporos Int. 2006; 17: 1514-23	Role of collagen enzymatic and glycation induced cross-links as a determinant of bone quality in spontaneously diabetic WBN/Kob rats.	Saito M, Fujii K, Mori Y, Marumo K	糖尿病・代謝・内分泌内科
44	Circ Res 2006; 99: 1411-1418	Upregulation of heat shock transcription factor 1 plays a critical role in adaptive hypertrophy.	Sakamoto M, Minamino T, Toko H, Kayama Y, Zou Y, Sano M, Takaki E, Aoyagi T, Tojo K, Tajima N, Nakai A, Aburatani H, Komuro I	糖尿病・代謝・内分泌内科
45	Jikeikai Med J 2006; 53: 93-99	Comparison of the efficacy and safety of antithyroid drugs.	Takeuchi M, Yoshimura H, Tojo K, Ito K	糖尿病・代謝・内分泌内科
46	Lancet 2006; 368: 1155-63	Primary prevention of cardiovascular disease with pravastatin in Japan (MEGA Study) : a prospective randomized controlled trial.	The Mega Study Group.	糖尿病・代謝・内分泌内科
47	Anticancer Res. 2006 Mar-Apr;26(2A):843-50.	JAS-R, a new megakaryo-erythroid leukemic cell line that secretes erythropoietin.	Sekikawa T, Iwase S, Saito S, Arakawa Y, Agawa M, Horiguchi-Yamada J, Yamada H.	腫瘍・血液内科
48	Leuk Res. 2006 Jun;30(6):723-34. Epub 2005 Nov 2	Depsipeptide-resistant KU812 cells show reversible P-glycoprotein expression, hyperacetylated histones, and modulated gene expression profile.	Yamada H, Arakawa Y, Saito S, Agawa M, Kano Y, Horiguchi-Yamada J.	腫瘍・血液内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
49	Int J Hematol. 2006;83(1):55	A phase II study of VEPA/FEPP chemotherapy for aggressive lymphoma in elderly patients: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG9203.	Mizoroki F, Hirose Y, Sano M, Fukuda H, Tobinai K, Nakata M, Taniwaki M, Kawano F, Uozumi K, Sawada K, Fukuhara S, Nasu K, Ohno Y, Toki H, Togawa A, Kikuchi M, Hotta T, Shimoyama M; JCOG-LSG.	腫瘍・血液内科
50	Mol Cancer Ther. 2006;5(3):502-8	Novel missense mutation of the DNA topoisomerase I gene in AN-38-resistant DLD-1 cells	Yasuhiro Arakawa, Hideaki Suzuki, Shinobu Saito, and Hisashi Yamada	腫瘍・血液内科
51	Clinical Lymphoma&Myeloma. 2007;39:171-80	Purification and characterization of C-terminal truncated forms of histone H2A in monocytic THP-1 cells	Jiro Minami, Koji Takada, Katsuhiko Aoki, Yohta Shimada, Yutaka Okawa, Noriko Usui, Kiyoshi Ohkawa	腫瘍・血液内科
52	AJR AM Roentgenol. 2006;186(2):431-9	Breast-conserving surgery after chemotherapy : value of MDCT for determining tumor distribution and shrinkage pattern.	Tozaki M, Kobayashi T, Uno S, Aiba K, Takeyama H, Shioya H, Tabei I, Toriumi Y, Suzuki M, Fukuda K	腫瘍・血液内科
53	informa. 2006;47(10):2203-7	Aclarubicin plus behenoyl cytarabine and prednisolone for previously treated acute myeloid leukemia patients	NOBUAKI DOBASHI, OSAMU ASAI, SHINGO YANO, HIROSI OSAWA, YUTAKA TAKEI, YUKO YAMAGUCHI, TAKESHI SAITO, HIROYUKI TAMAZAKI, TADASHI KOBAYASHI&NORIKO USUI	腫瘍・血液内科
54	Int J Hematol.2006;84(5):406-12	Lung injury associated with bortezomib therapy in relapsed/refractory multiple myeloma in Japan : a questionnaire-based report from the "lung injury by bortezomib" joint committee of the Japanese society of hematology and the Japanese society of clinical hematology	Gotoh A, Ohyashiki K, Oshimi K, Usui N, Hotta T, Dan K, Ikeda Y	腫瘍・血液内科
55	Int J Hematol. 2006;83(5):443-9	Clinical features of polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan : retrospective analysis of a nationwide survey by the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group	Dan K, Yamada T, Kimura Y, Usui N, Okamoto S, Sugihara T, Takai K, Masuda M, Mori M; Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group	腫瘍・血液内科
56	Int J Hematol. 2006;84(5):463-4	Intensifying daunorubicin in induction for patients with core binding factor leukemia	Dobashi N, Yamaguchi Y, Asai O, Yano S, Osawa H, Yahagi Y, Takei Y, Sugiyama K, Saito T, Usui N	腫瘍・血液内科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
57	Clinical Lymphoma&Myeloma. 2007;7(5):361-3	Long-term Follow-up of Autologous Stem Cell Transplantation for Patients with Aggressive Non-Hodgkin Lymphoma Who Had Bone Marrow Involvement at Initial Diagnosis in the Pre-Rituximab Era	Shingo Yano, Osamu Asai, Nobuaki Dobashi, Hiroshi Osawa, Yutaka Takei, Shinobu Takahara, Hiroko Otsubo, Yoji Ogasawara, Yuko Yamaguchi, Takeshi Saito, Jiro Minami, Yasutaka Hoshi, Noriko Usui	腫瘍・血液内科
58	臨床血液 2006;47(12):1521-7	日本における再発・難治性多発性骨髄腫に対する個人輸入ボルテゾミブ治療に関連した肺障害 日本血液学会・日本臨床血液学会アンケート調査に基づく「ボルテゾミブ肺障害調査委員会」よりのレポート	後藤明彦, 大屋敷一馬, 押味和夫, 薄井紀子, 堀田知光, 壇和夫, 池田康夫, 日本血液学会・日本臨床血液学会合同ボルテゾミブ肺障害調査委員会	腫瘍・血液内科
59	J Clin Pathol 60(8):916-20, 2007.	Gene transfer of soluble transforming growth factor type II receptor by in vivo electroporation attenuates lung injury and fibrosis.	Yamada M, Kuwano K, Maeyama T, Yoshimi M, Hamada N, Fukumoto J, Egashira K, Hiasa K, Takayama K, Nakanishi Y.	呼吸器内科
60	J Clin Endocrinol Metab. 2006; 91(12), 4981-4987	Identification and Functional Analysis of the Novel S179R FOU1F1 Mutation Associated with Combined Pituitary Hormone Deficiency.	Eto Y, Miyata I, Vallette-Kasic S, Saveanu A, Takeuchi M, et al.	小児科
61	Journal of Pediatric Endocrinology and Metabolism (in press)	Right Testicular Necrosis and Left Vanishing Testis in a Neonate.	Eto Y, Miyata I, Yoshikawa H, Ikemoto M.	小児科
62	Jikeikai Med J. 2006; 53: 55-62	Successful Transduction of Mammalian Astrocytes and Oligodendrocytes by 'Pseudotyped' Baculovirus Vector in Vitro and Vivo.	Eto Y, Ohashi T, Kobayashi H, Watabe K, Izuka S, et al.	小児科
63	Pediatr Int. 2006 Oct; 48(5): 464-469	Serum glucagon-like peptide-2 levels in neonates: comparison between extremely low-birthweight infants and normalterm infants.	Eto Y, Miyata I, Yoshikawa H.	小児科
64	Cell Cycle. 2006 May; 5(10): 1094-1101	Human Shugoshin mediates kinetochore-driven formation of kinetochore microtubules.	Eto Y, Suzuki H, Akiyama N, Tsuji M, Ohashi T, Saito S.	小児科
65	腎と透析 透析会誌39(3): 172-173, 2006	Fabry病の酵素補充療法に関して-第50回日本透析医学界・第48回日本腎臓学会ワークショップより	衛藤 義勝	小児科
66	ホルモンと臨床 2006;54:52-59	リンパ球性汎下垂体炎を呈する小児例の内分泌的・病理学的検討およびその臨床経過について。「内分泌 クリティカルカンファレンス」	宮田市郎, 作間美織, 田嶋朝子, 吉川秀樹, 長村義之, 衛藤義勝	小児科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
67	日本小児科学会誌110(4) 521-525,2006	本邦初のムコ多糖症I型に対する酵素補充療法	小林博司、有賀賢典、田嶋朝子、櫻井謙、藤原優子、寺野和宏、宮田市郎、衛藤義勝、	小児科
68	小児科診療 69(11) 1724-1734, 2006	Fabry病	衛藤 義勝	小児科
69	臨皮 2007; 61: 201-204	尖圭コンジローマに対するインターフェロン筋注療法の試み	萩原正則 他	皮膚科
70	日皮会誌 2006; 116(11): 1583-91	乾癬特異的QOL評価指標Psoriasis Disability Index(PDI)日本語版の開発と信頼性・妥当性の検討	福地 修 他	皮膚科
71	臨皮 2006; 60(9): 855-61	乾癬に対するビタミンD3とステロイド併用外用療法からビタミンD3単独外用療法への移行の検討	福地 修 他	皮膚科
72	J Vasc Surg. 2007 Feb;45(2):236-42.	Initial results of wireless pressure sensing for endovascular aneurysm repair: the APEX Trial--Acute Pressure Measurement to Confirm Aneurysm Sac EXclusion.	Ohki T	外科
73	Vasc Surg Endovasc Ther. 2006 Dec;18(4):299.	Commentary on "Bioabsorbable stenting for peripheral arterial occlusive disease".	Ohki T	外科
74	Endovascular Today 2006 Sep.,60-66	A Review of Endovascular Options for Critical Limb Ischemia	Ohki T	外科
75	Endovascular Today 2006 Sep.,60-67	Treating Complex Femoropopliteal Lesions	Ohki T	外科
76	Endovascular Today 2006 Oct.,23-24	Conflicts of Interest and Double Standards	Ohki T	外科
77	Endovascular Today 2006 Nov.,29-36	Aptus Endovascular AAA Repair System	Ohki T	外科
78	Endovascular Today 2006 Nov.,55-63	Long-Term AAA Sac Pressure Monitoring	Ohki T	外科
79	Endovascular Today 2007 Mar.,47-52	The Dawn of AAA Stenting in Japan	Ohki T	外科
80	Life Sci. 2007 Jan 16;80(6):559-65.	Transplantation of adipose stromal cells, but not mature adipocytes, augments ischemia-induced angiogenesis.	Sumi M	外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
81	Clinical Characteristics. Int J Colorectal Dis. (in press)	Poorly Differentiated Adenocarcinoma of the colon and rectum Clinical Characteristics. Int J Colorectal Dis. (in press)	Ogawa M	外科
82	Clin Cancer Res. 2006;12(10):3057-63.	Clinical significance of TROP2 expression in colorectal cancer.	Ohmachi T	外科
83	Eur J Surg Oncol 2006 ;32(7):743-8.	Familial clustering in subgroups of gastric cancer stratified by histology, age group and location.	Eto K	外科
84	Liver Int 2007; 27(1): 101-8	A comprehensive gene expression analysis of human hepatocellular carcinoma cell lines as components of a bioartificial liver using a radial flow bioreactor.	Kosuge M	外科
85	Ann Thorac Cardiovasc Surg	Thoracoscopic Surgery for Lung Cancer.	Moirkawa T.	外科
86	Breast Cancer	Percutaneous endoscopy-guided biopsy of an intracystic tumor with a mammary ductoscopy.	Uchida K	外科
87	Surg. Today	Primary rhabdomyosarcoma of the breast in a 13-year-old girl: report of a case.	Nogi H	外科
88	J Am Coll Surg	Use of Lymphoscintigraphy Defines Lymphatic Drainage Patterns Prior to Sentinel Lymph Node Biopsy for Breast Cancer.	Kawase K	外科
89	Artificial Organ 2006; 31: 148-51.	Extracorporeal bioartificial liver using the radial-flow bioreactor in treatment of fatal experimental hepatic encephalopathy.	Kanai H	外科
90	J Surg Oncol 2006; 94: 614-8.	Is metallic stenting worthwhile for biliary obstruction due to lymph node metastases?	Okamoto T	外科
91	J.Hepatobiliary Pancreat Surg 2006; 13 : 317-22.	Three-port laparoscopic partial hepatectomy using ultrasonically activated device (USAD).	Toyama Y	外科
92	Liver Transplant 2006; 12: 600-4.	The association of HLA-DR13 with lower graft survival rates in hepatitis B and primary sclerosing cholangitis patients receiving a liver transplant.	Futagawa Y	外科
93	Surg Today 2006; 36: 954-60.	Therapeutic effects of laparoscopic fundoplication for nonerosive gastroesophageal reflux disease.	Omura N	外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
94	Surg Endosc 2007; 21:427-30.	Prediction of recurrence after laparoscopic fundoplication for erosive reflux esophagitis based on AFP classification.	Omura N	外科
95	J Orthop Sci 2006;11:154-8	MRI study of bioabsorbable poly-L-lactic acid devices used for fixation of fracture and osteotomies.	Marumo K, Sato Y, Suzuki H, Kurosaka D.	整形外科
96	Osteoporosis Int 2006;17:986-95	Reductions in degree of mineralization and enzymatic cross-links and increases in glycation induced pentosidine in the femoral neck cortex in cases of femoral neck fracture.	Saito M, Fujii K, Soshi H, Tanaka T.	整形外科
97	Osteoporosis Int 2006;17:1514-23	Role of collagen enzymatic and glycation induced cross-links as a determinant of bone quality in the spontaneously diabetic WBN/Kob rat.	Saito M, Fujii K, Mori Y, Marumo K.	整形外科
98	Calcified Tissus Int 2006;79:160-8	Degree of mineralization-related collagen crosslinking in the femoral neck cancellous bone in cases of hip fracture and controls.	Saito M, Fujii K, Marumo K.	整形外科
99	Childs Nerv Syst	Proposal of "evolution theory in cerebrospinal fluid dynamics" and minor pathway Hydrocephalus in developing immature brain.	Oi S, Di Rocco C.	脳神経外科
100	J Neurosurg	Endovascular operating suite: future directions for treating neurovascular disease.	Murayama Y, Saguchi T, Ishibashi T, Ebara M, Takao H, Irie K, Ikeuchi S, Onoue H, Ogawa T, Abe T.	脳神経外科
101	Interventional Neuroradiology	Thromboembolic events during endovascular coil embolization of cerebral aneurysms.	Ishibashi T, Murayama Y, Saguchi T, Ebara M, Irie K, Takao H, Abe T.	脳神経外科
102	脳神経外科.	Intraoperative photodynamic diagnosis for spinal ependymoma using 5-aminolevulinic acid Technical note.	荒井隆雄, 谷 諭, 磯島 晃, 長島弘泰, 常喜達裕, 阿部俊昭.	脳神経外科
103	脳神経外科.	頭部外傷データベースにおける急性硬膜下血腫526例の検討-局所性およびびまん性脳損傷としての病態生理-.	沢内聡, 村上成之, 小川武希, 阿部俊昭.	脳神経外科
104	形成外科学会誌49:975-983, 2006	各種骨接合法の固定力	栗原邦弘, 中島彰子, 酒井新介	形成外科
105	日本頭蓋顎顔面外科学会誌 22:235-247, 2006	顎関節疾患の治療経験	栗原邦弘, 西岡弘記, 森克哉, 勝畑知之, 宮脇剛司, 金松	形成外科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
106	形成外科学会誌49:1237-1243, 2006	頬骨骨折の治療—最小侵襲手術の観点から 頬骨骨折治療成績からの問題点	松浦慎太郎, 篠田明彦, 宮脇剛司, 栗原邦弘	形成外科
107	PEPARS10:60-65, 2006	Free MS-2 TRAM flapによる乳房再建	武石明精	形成外科
108	Annals of Plastic Surgery57:300-304, 2006	Primary Intrapelvic Lymphaticovenular Anastomosis Following Lymph Node Dissection	Takeishi M, Kojima M, Mori K, Kurihara K, Sasaki H	形成外科
109	日本マイクロ会誌19:384-389, 2006	遊離皮弁による乳房再建—美的再建に基づいた皮弁の選択—	武石明精, 藤本雅史, 石田勝大, 栗原邦弘	形成外科
110	形成外科学会誌49:787-794, 2006	肋骨付き腹直筋皮弁による下顎骨再建	寺尾保信, 小島正裕, 三橋敏雄, 笹村佳美, 内田育宏	形成外科
111	Plastic and Reconstructive Surgery118:1338-1348, 2006	Defining Vascular Supply and Territory of Thinned Perforator Flaps ( Part2: Supra Gluteal Artery Perforator Flap )	Nojima K, Spencer B, Cengiz A, Gary A, James C, Kurihara K, Rohrich R.	形成外科
112	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006;12(3):159-65	Patient-Prosthesis Mismatch:The Japanese Experience	Hashimoto K	心臓外科
113	Ann Thorac Surg 2006;81:1305-9	Prevalence and avoidance of patient-prosthesis mismatch in aortic valve replacement in small adults	Sakamoto Y	心臓外科
114	心臓 2006;38(5):452-6	大動脈弁狭窄周術期におけるBNP濃度の変化について	坂本吉正	心臓外科
115	Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2006;54:142-8.	Impact of concomitant cardiac procedure on coronary artery surgery in hemodialysis-dependent patients	Kawahito K	心臓外科
116	慈恵医大誌2007;122:27-40	血液心筋保護下再灌流時における高濃度 phosphodiesterase III 阻害薬選択的投与による cyclic AMP 補充の有効性～心筋虚血再灌流障害に対する新たな心筋保護戦略～	黄 義浩	心臓外科
117	日本心臓血管外科学会雑誌 2006;35(4):198-204	先天性心疾患における16列MDCTの有用性	中村 賢	心臓外科
118	Placenta.	IGFBP1 and Follistatin-like 3 genes are significantly up-regulated in expression profiles of the IUGR placenta.2006; 27:317-21	Okamoto A, Endo H, Kalionis B, Shinya M, Saito M, Nikaido T, Tanaka T.	産婦人科
119	Cancer Cell	Unique microRNA molecular profiles in lung cancer diagnosis and prognosis.2006; 9:189-98	Yanaihara N, Caplen N, Bowman E, Seike M, Kumamoto K, Yi M, Stephens RM, Okamoto A, Yokota J, Tanaka T, Calin GA, Liu CG, Croce CM, Harris CC.	産婦人科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
120	Oncol Rep.	Association of extracellular matrix metalloproteinase inducer in endometrial carcinoma with patient outcomes and clinicopathogenesis using monoclonal antibody 12C3. 2007; 17: 731-735	Ueda K, Yamada K, Urashima M, Ishibashi Y, Shirai M, Nikaido T, Takahashi H, Okamoto A, Saito M, Yasuda M, Ohkawa K, Tanaka T.	産婦人科
121	Oncol Rep.	Increased synthesis of indoleamine-2,3-dioxygenase protein is positively associated with impaired survival in patients with serous-type, but not with other types of, ovarian cancer. 2007; 17:1333-9	Takao M, Okamoto A, Nikaido T, Urashima M, Takakura S, Saito M, Saito M, Okamoto S, Takikawa O, Sasaki H, Yasuda M, Ochiai K, Tanaka T..	産婦人科
122	European Urology 50 20-22 2006	Search for Biomarkers of aggressiveness in Bladder Cancer.	Shin Egawa, Hidetoshi Kuruma	泌尿器科
123	Urology 67(2) 321-327 2006	Change in Quality of life in first year after radical prostatectomy by retropubic, Laparoscopic, and perineal approach: Multi-institutional longitudinal study in Japan	Igawa Namiki, Shin Egawa, Toshiro Terachi, Akio Matsubara et al.	泌尿器科
124	International Journal of Urology 13 880-884 2006	Percutaneous cryoablation of renal cell carcinoma guided by horizontal open magnetic resonance imaging.	Kenta Miki, Tatsuya Shimomura, Hiroki Yamada, Koichi Kishimoto, Shin Egawa	泌尿器科
125	Jpn J Ophthalmol 2006; 50: 469-73.	Metastasis to the orbit from transitional cell carcinoma of the bladder.	Shikishima K. et al.	眼科
126	J Clin Neurosci 2006; 13: 923-8.	Interpretation of hemianopia respecting the vertical meridian not related to chiasmal or postchiasmal lesions.	Shikishima K. et al.	眼科
127	Exp Eye Res 2006;82:657-63.	Treatment of Experimental Autoimmune Uveoretinitis with Poly (lactic acid) Nanoparticles Encapsulating Betamethasone Phosphate.	Sakai T. et al.	眼科
128	Ophthalmology 2007 ; 114: 134-41	A novel homozygous GRK1 mutation (P391H) in 2 siblings with Oguchi disease with markedly reduced cone responses.	Hayashi T. et al.	眼科
129	Vis Neurosci 2006 ; 23 : 411-7.	Novel form of a single X-linked visual pigment gene in a unique dichromatic color-vision defect.	Hayashi T. et al.	眼科
130	Vis Neurosci 2006 ; 23 : 395-402.	Compound heterozygous CNGA3 mutations (R436W, L633P) in a Japanese patient with congenital achromatopsia.	Goto-Omoto S., Hayashi T. et al.	眼科
131	Exp Eye Res 2007;84:569-76.	Treatment of experimental autoimmune uveoretinitis with atorvastatin and lovastatin.	Kohno H. et al.	眼科
132	Vis Neurosci 2006 ; 23 : 371-8.	Mutually exclusive expression of the L and M pigment genes in the human retinoblastoma cell line WERI: resetting by cell division.	Deeb SS, Liu Y, Hayashi T.	眼科



No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
133	頭頸部癌 32巻1号56-60	NBI内視鏡で発見された下咽頭癌症例の検討	加藤孝邦、他	耳鼻咽喉科
134	Arch Otolaryngol Head Neck Surg 2006; 132: 682-85	Enhancement of cisplatin sensitivity in squamous cell carcinoma of the head and neck transfected with a survivin antisense gene	Kojima H, et al	耳鼻咽喉科
135	Am J Otolaryngol 2006; 27: 418-21	Penetrating vestibular injury due to a twig entering via the external auditory meatus	Kojima H, et al	耳鼻咽喉科
136	ENTONI 2006; 61: 20-6	画像診断マニュアル. 先天性真珠腫	小島博己	耳鼻咽喉科
137	頭頸部外科 2006; 16:27-31	前頭洞の炎症性疾患および嚢胞性疾患に対する拡大手術と縮小手術の進歩.	鴻 信義、他	耳鼻咽喉科
138	耳展 2006; 49: 318-21	術後性上顎嚢胞に対するナビゲーション手術.	鴻 信義、他	耳鼻咽喉科
139	JOHNS 2006; 22; 1343-8	3次元画像の実際, ナビゲーションシステム, 鼻科領域	鴻 信義、他	耳鼻咽喉科
140	Arch Otolaryngol Head Neck Surg. 2006; 132: 734-42	Identification of specific gene expression profiles in fibroblasts derived from middle ear cholesteatoma	Yoshikawa M, et al	耳鼻咽喉科
141	Acta Otolaryngologica (Stockh). 2006; 126: 801-10	In vitro reconstruction of a 3-dimensional middle ear mucosal organ and its in vivo transplantation	Wada K, et al	耳鼻咽喉科
142	Neurosignals 2006;15: 102-110	Facilitated beam walking recovery during acupuncture	Abo M, Yamauchi H, Suzuki M, Sakuma M, Urashima M.	リハビリテーション科
143	J Rehabil Med 2006; 38: 20-25	Effectiveness of Comprehensive Day Treatment Program for Rehabilitation of Acquired Brain Injury Patients in Japan.	Hashimoto K, Okamoto T, Watanabe S, Ohashi M	リハビリテーション科
144	Jikeikai Med J 2006;53: 141-145	Positive Behavioral Support to a Patient with Traumatic Brain Injury and His Family from the Acute Stage.	Uruma G, Hashimoto K, Kohno M, Kaito N, Taya K, Abo M, Miyano S	リハビリテーション科
145	Dysphagia 2006;21:191-197	Laterality of Swallowing in Healthy Subjects by AP Projection Using Videofluoroscopy.	Seta H, Hashimoto K, Inada H, Sugimoto A, Abo M	リハビリテーション科
146	Eur Neurol 2006; 56: 106-112	Is the ipsilateral cortex surrounding the lesion or the non-injured contralateral cortex important for motor recovery in rats with photochemically induced cortical lesions?	Takata K, Yamauchi H, Tatsuno H, Hashimoto K, Abo M	リハビリテーション科
147	Jikeikai Med J 2006;53: 81-86	Rational speech therapy judging from differences in functional MRI activation.	Tastuno H, Senoo A, Abo M	リハビリテーション科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
148	Jikeikai Med 2007;53: 151-158	Relationship between Cognitive Function and Regional Cerebral Blood Flow in Stroke Patients Using 99mTC-ECD SPECT 3DSRT	Sasaki N, Abo M	リハビリテーション科
149	Eur J Neurol 2007; 14:e7-8	Re-organization of language function within the right hemisphere	Abo M, et al	リハビリテーション科
150	Jikeikai Med J 2006;53: 147-149	Frontal Lobe Function in a Patient with Amblyopia.	Hashimoto K, Uruma G, Asakawa K, Abo M	リハビリテーション科
151	Jikeikai Med J 2006;53: 141-145	Positive Behavioral Support to a Patient with Traumatic Brain Injury and His Family from the Acute Stage.	Uruma G, Hashimoto K, Kohno M, Kaito N, Taya K, Abo M, Miyano S	リハビリテーション科
152	J Medical and Dental Sciences	Teeth contacting habit as a contributing factor to chronic pain in patients with temporomandibular disorders.	Masashi Sugisaki, et al	歯科
153	日顎誌	日本人顎関節症患者におけるGrading of Severity of Chronic Painの妥当性	杉崎正志、来間恵里、吉田奈穂子、玉井和樹、ほか	歯科
154	日本再生医療学会雑誌2006; 5(3):395-400	ハイブリッド人工肝臓 体外循環型バイオ人工肝臓の開発と臨床応用への問題点	松浦知和他	中央検査部
155	機器・試薬2006: 29:355-363	AIA-1800による高感度PSA,Free PSA測定法の検討	湯川博士, 海渡 健他	中央検査部
156	Endoscopy 2006;38(4):391-394.	Clinical and endoscopic characterization of depressed gastric adenoma.	Tamai N, et al.	内視鏡科
157	J Gastroenterol 2006;41(5):483-490.	New approach to diagnosing ampullary tumors by magnifying endoscopy combined with a narrow-band imaging system.	Uchiyama Y, et al.	内視鏡科
158	Gastrointest Endosc 2006;64(1):82-89.	Endoscopic full-thickness resection: Circumferential cutting method.	Ikeda K, et al.	内視鏡科
159	J Gastroen Hepatol 2006;21(7):1122-1128.	New generation argon plasma coagulation in flexible endoscopy: Ex vivo study and clinical experience.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
160	Endoscopy 2006;38(10):1011-1015.	A novel double-channel therapeutic endoscope ("R-scope") facilitates endoscopic submucosal dissection of superficial gastric neoplasms.	Yonezawa J, et al.	内視鏡科
161	Gastrointest Endosc 2007;65(1):134-9.	Endoscopic full-thickness closure of large gastric perforations by use of tissue anchors.	Sumiyama K, et al.	内視鏡科
162	J Gastroenterol 2007;42(3):219-24.	Color Doppler endoscopic ultrasonography in identifying groups at a high-risk of recurrence of esophageal varices after endoscopic treatment.	Kuramochi A, et al.	内視鏡科

No	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
163	日本輸血細胞治療学会雑誌 53:374-383,2007.	ABO型不適合輸血の発生原因による解析	藤井康彦、松崎道男、宮田茂樹、東谷孝徳、稲葉 頌一、浅井隆善、星順隆、稲田英一、河原和夫、高松純樹、高橋考喜、佐川公矯	輸血部
164	Nephrol dial Transplant 2006: 21(6); 1675-81	Quantitative assessment of the peritoneal vessel density and vasculopathy in CAPD patients.	Ali M.S, Nakayama M, Maruyama Y, Yoshida H, Yamamoto H, Yokoyama K, Kawakami M.	病院病理部
165	Magn Reson Med Sci 2006: 5(3); 137-46	Dynamic high-spatial-resolution MR imaging of invasive ductal carcinoma: Influence of histological scirrhous component on MR descriptors.	Tozaki M, Fukuda K, Suzuki M.	病院病理部
166	Prostate 2006: 66; 405-12	Allelotyping analysis at chromosome 13q of high-grade prostatic intraepithelial neoplasia and clinically insignificant and significant prostate cancer.	Lu W, Takahashi H, Furusato M, Nakano M, et	病院病理部
167	Jpn J Ophthalmol 2006: 50(5); 469-73	Metastasis to the orbit from transitional cell carcinoma of the bladder.	Shikishima K, Miyake A, Ikemoto I, Kawakami M.	病院病理部
168	慈恵医大誌 2006: 121(5); 223-40	原発性肺癌の臓器転移に関する解析(第二報).	原田徹, 河上牧夫, 他	病院病理部
169	腎と透析 2006: 61(別冊); 69-74	[腹膜透析2006] 腹膜の素性と変容 腹膜透析の合併の理解のために.	河上牧夫, アリモハメドシェリフ, 岩淵馨, 川口良人.	病院病理部
170	乳癌の臨 2006: 21(1); 96-100	Multislice computed tomographyによる乳癌の広がり診断と乳房温存手術.	山下晃徳, 内田賢, 河上牧夫, 他	病院病理部
171	慈恵医大誌 2007: 122(1); 1-10	原発性肺癌のリンパ節転移に関する解析(第三報).	原田徹, 河上牧夫, 他	病院病理部

- (注)1. 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なるものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2. 発表者氏名欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 森山 寛	
管理担当者氏名 (担代表者) 事務部長 今出 進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する諸記録	事務部長、薬剤部長、人事部長、学事部長 総務部長、財務部長、他関係部署責任者

		保管場所	分類方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患者 に係る入院期間中の診療経過の要約		院長室 診療部署単位 診療情報室 〔各科外来 各病棟 フィルム係他〕	科別、入院外来別、年度別、 月別患者登録番号順、日付順 (記録の種類により異なる)	
病院の管理 及び運営に 関する 諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課、教育センター 教員・医師人事室		
	高度の医療の提供の実績	診療各科 管理課		
	高度の医療技術の開発及び評価の 実績	診療各科 管理課		
	高度の医療の研修の実績	診療各科 管理課		
	閲覧実績	管理課、業務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	診療各科		
	入院患者数、外来患者数及び 調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 業務課 薬剤部		
	規則第 9条の 2、3 及び第 11条 各号に 掲げる 体制	専任の医療に係る安全管理 を行う者の配置状況	医療安全推進室	
		専任の院内感染対策を行う 者の配置状況	医療安全推進室	
		医療に係る安全管理を行う 部門の設置状況	医療安全推進室	
当該病院内に患者からの安全 管理に係る相談に適切に 応じる体制の確保状況		看護部 (患者相談窓口担当)		
医療に係る安全管理の為の 指針の整備状況		医療安全推進室及び 各関係部署		
医療に係る安全管理のため の委員会の開催状況		医療安全推進室		
医療に係る安全管理のため の職員研修の実施状況		医療安全推進室		
医療機関内における事故報 告等の医療に係る安全の確 保を目的とした改善のため の方策の状況	医療安全推進室			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	院長 森山 寛	
閲覧担当者氏名 (担当代表者) 事務部長 今出 進章	診療に関する諸記録	診療各科責任者、各病棟・各外来看護師長 放射線部技師長、薬剤部長、他関係部署責任者
	管理運営に関する諸記録	事務部長、薬剤部長、人事部長、学事部長 他関係部署責任者
閲覧の求めに応じる場所	附属病院会議室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	4 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	2 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	51.5 %	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		20,212人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,616人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		5,056人
	D：初診の患者数		60,007人

(注) 1. 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2. A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第 9 条の 2 3 及び第 1 1 条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に関わる安全管理を行う者の配置状況	有 (1名)
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (2名)
③ 医療に係る安全を行う部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 4 ) 名</li> <li>・主な活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全推進活動等の教職員への周知</li> <li>・インシデント・アクシデント等の情報の収集、分析、予防・改善策の立案及び実施</li> <li>・教職員への安全に関する教育・研修の企画、運営</li> <li>・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認と助言</li> <li>・事故等に関する診療録や看護記録等への記載の確認と助言</li> <li>・事故等の原因究明実施の確認と助言</li> <li>・改善策実施のための各部門への依頼、調整、助言、コンサルテーション</li> <li>・改善策実施後の評価と周知</li> <li>・リスクマネジメントマニュアルの管理・運用</li> <li>・リスクマネジメント委員会の資料及び議事録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること</li> <li>・SMART FORCE ( Safety Management And Reformation Task Force ) の運営に関すること</li> <li>・院内感染に関する連携</li> </ul> </li> </ul>	
④ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有
⑤ 医療に係る安全管理のための指針整備状況	有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指針の主な内容： <p>医療機関は「患者が安心して医療を受けられる環境を整え、提供すること」が求められ、最も避けるべきは医療を通じて加害することである。それには「人間は必ずミスを冒す」という事実を認識し、個々人の技術の向上に加えて、安全が確保できるシステムの構築が必要である。当院は、そこに働く全ての教職員及び委託業者・出入業者に対して、より安全な医療の提供と患者満足度の向上を第一にした医療活動を再認識させ、安全に対する意識を育み改善・改革を推進していくことを安全管理の基本方針としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント委員会の設置</li> <li>・医療安全推進室の設置及び医療安全管理者の配置</li> <li>・医療問題発生報告制度の運用と評価・分析、医療問題再発防止策の確立</li> <li>・教育、研修の企画と運営</li> <li>・問題事例発生時の緊急リスクマネジメント委員会での検証及び対応</li> </ul> </li> </ul>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容</li> </ul> <p>リスクマネジメント委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療事故防止対策の検討及び研究に関すること</li> <li>・医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること</li> <li>・医療事故防止のために行う提言に関すること</li> <li>・医療安全推進のための啓発、教育、広報及び出版に関すること</li> <li>・医薬品、医療機器の安全管理及び院内感染に関すること</li> <li>・医療安全の推進に関すること</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療訴訟に関すること</li> <li>・スタッコールに関すること</li> </ul> <p>フロアリスクマネージャー会議（外来・中央診療部門及び病棟、手術・ICU部門）年12回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重大事例、インシデント、アクシデント事例及び警鐘的事例の原因分析並びに再発防止策の検討及び提言・実施に関すること。</li> <li>・医療問題に関する諸記録の点検に関すること。</li> <li>・医療事故防止のための啓発、広報等に関すること。</li> <li>・他の委員会に対する勧告案の検討に関すること。</li> <li>・医療安全の推進に関すること。</li> </ul> <p>4 病院リスクマネジメント会議          附属4病院間の連携強化と情報共有のための会議 年4回</p>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年間延開催回数40回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>4 病院合同リスクマネジメントシンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周術期の深部静脈血栓症・肺血栓塞栓症の予防と対策（延出席者1,061名）</li> <li>・医療安全を発展的に再生産できる組織（延出席者829名）</li> <li>・褥瘡セミナー（延出席者98名）</li> <li>・医療安全タスクフォース POAM分析発表（延出席者226名）</li> <li>・リスクを減らす私達の工夫（延出席者356名）</li> <li>・医療安全ワークショップ（延出席者273名）</li> </ul> <p>リスクマネジメントセミナー、講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメント基礎研修会（年度内3回開催 延出席者355名）</li> <li>・クレームの防止と発生時の対応（出席643名）</li> <li>・4病院CPR講習会「ガイドライン2005改訂された心肺蘇生について」（延出席者324名）</li> <li>・院内感染対策セミナー（出席者188名）</li> <li>・手術・ICU部門勉強会（出席者188名）</li> <li>・医療安全のピットホール(落とし穴)（出席者168名）</li> <li>・医療機器安全使用のための講習会（年度内17回開催 延出席者590名）</li> </ul> <p>新入職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初期臨床研修医オリエンテーション（出席者36名）</li> <li>・看護部オリエンテーション</li> <li>・新入職員研修（出席者87名）</li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関における事故報告等の整備（有）</li> <li>・その他の改善のための方策の主な内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>院長、医療安全推進室長及び医療安全推進室等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施</li> <li>教職員に対する医療問題発生時の報告ルートの明示</li> <li>緊急リスクマネジメント委員会での事実確認及び組織的対応の実施</li> <li>リスクマネジメント委員会及びフロアリスクマネージャー会議、医療安全推進室での再発防止策の徹底</li> </ul> </li> </ul>	

医療問題の分析システム RCA分析及びPOAM分析の実施  
問題事例別のワーキンググループによる再発防止対策の立案と実施  
報告制度の整備

- ・ 関東信越厚生局及び東京都福祉保険局等への適切な報告
- ・ 所轄警察署への報告
- ・ 異状死報告手順の確立とモデル事業への参画
- ・ 医療事故等に関する判定委員会の設置と医療事故等公表基準の整備
- ・ 日本医療機能評価機構への報告